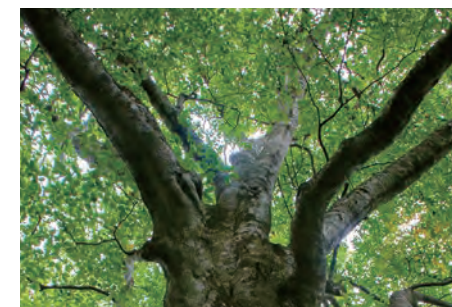


POSSIBILITY OF TABAYAMA

小さな村の大きな可能性



縁めぐる里 丹波山村
山梨県丹波山村 村勢要覧 2024



村の木 ブナ



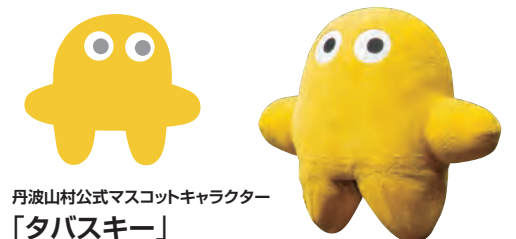
村の花 ミツバツツジ



村の鳥 コマドリ

 **山梨県 丹波山村**

〒409-0300 山梨県北都留郡丹波山村2450
TEL 0428-88-0211
<https://www.vill.tabayama.yamanashi.jp/>
発行:令和6年3月



丹波山村公式マスコットキャラクター
「タバスキー」

丹波山の「丹」の文字をモチーフにしたUFOのような形と「アダムスキー型」にもかけ「丹波山が好き～」という思いで「タバスキー」と名づけられました。「TABASKY」という名前から東欧の人かな?と思いますが、どうも宇宙からやってきたみたいです。そのカワイイ姿は村内外から大人気で、丹波山村をアピールするために大活躍しています。

小さな村の 大きな可能性

縁めぐる里 丹波山村

山梨県の北東部、東京と埼玉との県境に位置する丹波山村は、2000メートル級の険しい山々に囲まれ、東京都の水源となる多摩川の源流丹波川の清流が流れる、山深い里。村全体が秩父多摩甲斐国立公園と甲武信ユネスコパークの中にあり、人口はわずか500名余りという日本で有数の小さな村です。

私たちは、少子高齢化をはじめとする様々な課題に、時に村外の力も借りながら向き合い、この村のあるべき姿を模索してきました。小さな村ならではの、顔と名前がわかり、笑顔で挨拶をしあえる関係性を大切に、人との縁をつないできました。

今、若い世代の移住者が相次ぎ、村に活気が戻りつつあります。2024年の移住したい村ランキングで1位に選ばれるなど、確実に変化が現れ始めています。

小さくても、キラキラ輝く村になりたい。
村民と一緒に輝く未来をつくっていききたい。
私たちは、この村の大きな可能性を信じて、
誰ひとり取り残さない、幸福度100%の村を目指していきます。

Tabayama Village

514 (令和5年12月31日現在)
人 [丹波山村の人口]

806,453 (令和5年12月31日現在)
人 [山梨県の人口]



CONTENTS

巻頭特集

4 ちいさな村で暮らすこと

Top Interview

8 住む人も、訪れた人も、 笑顔で輝く「村」をつくる

13 むらづくりの基本目標

活力とにぎわいのある村づくり
自然と調和した安心の村づくり
育みと伝承の村づくり
健康でふれあいのある村づくり
知恵と協働の村づくり

村民と行政担当者が村の魅力を語ります

19 TABA TALK

28 丹波山村の取り組みとサポート

32 二十歳の希望「未来の丹波山へ」

34 議会と行政



巻頭特集

ちいさな村で 暮らすこと

関東でいちばん小さな丹波山村。
約500人の村民の5人に1人は、
若い移住者です。
駅もコンビニもないこの村の、
何に魅せられて来たのでしょうか？
村での暮らしを
熱く語る彼らの言葉には、
この村の未来を
つくるためのヒントが隠れていました。



特別座談会

移住者と村長が

じっくり語りあう

村で活躍する移住者たち

村長 丹波山村では人口減少を食い止めるために、平成4年に山村留学、平成26年からは地域おこし協力隊も受け入れてきました。もちろん、全員が今も村にいるわけじゃないけれど、現状、約500名の村民のうち約1000名が移住者。これは一つの成果だと思っ。今日のメンバーにも、山村留学や地域おこし協力隊をきっかけに移住してくれた方がいるよね。

佐藤 僕は7年前に林業の地域おこし協力隊としてこの村に来て、村内に林業事業者が少ない状況下で3年間活動しました。その間に、自分なりにできることがあるという手ごたえを得られたので、卒業後も起業して林業を続けています。

村長 この10年間に約40名の協力隊員が来てくれて、うち6人が起業しているんだよね。それぞれが村を活気づけてくれていて、この後も起業する人が出てきそうな気配もある。すごくあり

過疎地の先進事例になるくらい、これからもチャレンジし続ける村であって欲しいですね。

株式会社TreeLumber
林業/佐藤駿一さん
(2017年神奈川県より移住)



がたいし、それが様々なところで良い方向に波及していると思っています。

佐藤 若い人が少ないこともあって、一人ひとりが主役になれる村という印象が強く、起業しやすい環境ではあると思います。実際、私も他の5名も、自分なりに続けることができているし、村にも、村の人たちにも、応援してもらっているという実感がありますね。

村長 梅ちゃんは、どうしてこの村で起業しようと思ったの？
梅原 僕の場合は、たまたま大学の授業で出会ったこの村に、コロナの影響

でリモートでも良くなったのを機に入り浸るようになって、村内の事業者さんのお手伝いをしていたんですね。その中で、不動産業者がいらないことで村がすごく困っているという現状を知り、やってみようかなと。幸い年齢的にもまだ若いので、失敗したら、このエピソードを持って東京で就職すればいいやぐらいの気持ちでした。

熱い思いを持つ人がスムーズに移住して輝けるよう、住宅不足を解消し、その土台をつくりたい。

梅鉢不動産株式会社 不動産業/梅原颯太さん (2022年東京都より移住)



村長 実際に活動してみても、どう感じたのかな？

梅原 すんなりいく物件は少ないし…。正直、不動産業としては失敗したなと思うところもあるんですが、もうちょっと踏ん張れば、そろそろ数字として結果が出てくるんじゃないかと思っています。

村長 小川さんは山村留学がきっかけで移住したんだよね。学校が小さくて驚いたんじゃない？

小川 ええ、学年に1〜2人しかいないから、始業式の学年代表挨拶で、ほぼ全員が前に出て発表するんです。す

力を合わせ幸せな村をつくらう

村長 駅もコンビニもない村だけど、毎年新しく入ってくる人がいて、移住の問い合わせもあってというのには、便利さでは計れない暮らしやすさみたいなものがあるんだろうなと思うし、それはこの村の魅力だよ。ではそれを、どう発信して、どう受け入れていけたらいいのか。皆さんはもう受け入れ側に回っていると思うので、そのあたりについて意見を聞かせてもらえないかな。

梅原 今回のこの村は、家も店舗も事務所もない、新築するにも場所がないため、移住希望者がいても断らざるを得ないというのが大きな課題。なので、そこを早急に何とかしなきゃいけないと思うんです。うちの会社として、も、ひと通りの空き家調査が終わったので、今後はハード面で村が困らないようにするための仕組みをできるだけ早くつくりたいと思っています。

佐藤 地域おこし協力隊も10年が経ち、とりあえず人を受け入れるという段階から、欲しい人材を取っていくという段階に移っていくんじゃないかと思うんです。山村留学も同じで、年齢とか、テーマを設けるとか、ある程度絞って受け入れていくことが必要で、それを発信することも必要だと思います。

小川 私は、受け入れる側と来る側のハピネスが合致するのが一番いいと思っています。そのためには、山村留学であれば「丹波山ではこういう教育ができますよ」という明確なビジョン

こんな安心な場所です。子育てできた私は幸せ者。息子は、村の人たちが育ててくれたと思っています。

一般社団法人タバヤマベース / 小川晶子さん (2016年東京都港区より移住)



ごい度胸だなぁと感心しました。それに、運動会も、委員会活動も、みんなが主役。大人も子どもも、120%の力を出して頑張っている印象でした。村長 村から委託している放課後子ども教室の方はどうですか？

小川 田舎の子どももって、野山を駆け回って遊んでいるだろうと思って来たんですが、実際には、遊ぶ相手がいなくて、ゲームを持って温泉に引きこもっていたんです。これは良くないと思って「そうだ！遊ぶ場をつくらう」というところから始めて、5年ほどになります。この間、子どもたちが学年をこえた縦のつながりの中で成長している様子を見て来て、やってよかったと思っています。

子どもたちに、丹波山ならではの教育を！

村長 日永先生はいろんな学校を見てこられたそうですね。日永 僕は全国の小規模校を見てきた

一人ひとりがこの村の主役。誰ひとり取り残すことなく、みんなが笑顔でいられる村に。

村長/木下喜人



を示したうえで希望者を募り、その子が本場にこの村で幸せになれるのか、その子が来ることによって、この村がどのように幸せになっていくのかというところを、慎重に考えた上で受け入れることが大事なのかなと。教育って、その子にとっては1回しかないの。日永 コミュニティースクールになったとはいえ、まだまだ道半ば。いろんな人を巻き込みながら、丹波山ならではの教育をつくっていかたいなと思いますし、学校プラスアルファの部分で魅力を打ち出していかれたらと思います。それから、新しく入ってくる方々にも、ぜひ、子どもたちを育てる主役になってほしいですね。

村長 目指すところは、幸福度100%。いろんな課題もあるけれど、意欲ある人たちが、思いのある人たちと、知恵を絞り、手を携えて、村で暮らす人ももちろん、外から見ても幸せな村にしていきたいと思っています。これからはよろしくお願いします。

経験が多いんですが、小さい学校って、実はものすごい可能性を秘めているんですね。丹波山の学校でも、ここにはないすごい教育ができるんじゃないかとワクワクしています。

村長 日永先生の尽力もあって、丹波山の小学校と中学校は令和4年度からコミュニティースクールになりました。

日永 コミュニティースクールは、地域住民が積極的に関わりながら特色ある学校づくりを進めて行こうという取り組みなので、丹波山村にはすごく合っていると思います。ここには、何を何とかしたいという熱い思いを持って活動している人がたくさんいるから、僕は、本当の意味での起業家精神のようなものを子どもたちに経験させてあげることができんじゃないかと思っています。その結果、本人が起業するかどうかはともかく、自分で何か行動を起こせる子、本当の意味での自主性のある子が育つんじゃないかと。

小川 私は、村の人たちが木を切らせてくれたり、鹿をさばかせてくれたりと、ここじゃなきゃできない色々な経験をさせてくれたこと、大人と子どもが直接関わり合える関係性が、うちの息子の根っこを育ててくれたと思っています。息子は、今春丹波中学校を卒業して、今は東京に戻って学校に通っているんですが、今でも丹波山が大好きだし、そんな小中学校時代を過ごせたことは、彼の人生の中ですごく意義があったと思うんですね。

日永 本物に接しながら日々を過ごせるのは非常に価値のあることだし、丹波山の強み。そこを育ちの原点にしていけたらいいですね。コミュニティースクールでは、自然体験や林業体験、舞茸祭りへの参加なんかもカリキュラムに組み込んでいて、佐藤さんや梅原さんも含め、色々な人を巻き込みながら、価値に触れる機会をつくっています。そうやって、親でも先生でもない大人と関わりながら育つことで、自己肯定感の高い、自分で頑張ろうとする子を育てられたらと思うんですね。幸い、ここにはそういうことができる環境があるし、担い手になってくれるうな大人もたくさんいるのでね。

聞かされたコミュニティの丹波山村。魅力あふれる地域の人たちと、ここでしかできない教育をつくっていきます。

山梨大学教授/日永龍彦さん (コミュニティースクールアドバイザー)



村長 そういう考え方はすごくいいと思う。理想は、成果を担う学校教育と、村が主体になってやれる社会教育のハイブリッド。そこへ向かって進んでいけるよう、学校とのバランスもとりながら、いろいろと考えてやっていきたいと思っています。



23歳で、村で唯一の不動産屋「梅鉢不動産株式会社」を起業。空き家を活用した村おこしのロールモデルをつくり、丹波山発全国への企業を目指す。

不動産業/梅原颯太さん

かなり前から、物件がないために移住希望者に住まいを提供できないという状況が続いていたものの、しっかり取り組める不動産業者がこの村にはいませんでした。それなら僕がやろうと思ったのが、この村で起業した大きなきっかけです。地形特性から限られてしまう宅地面積にパンパンに家が詰まっっていて、その3分の1が空き家というのが今の丹波山村。当初は、空き家を持つ人と、丹波山に住みたい人を結ぶお手伝いができればと思っていましたが、空き家調査を進めるなかで、すぐに使える家が少なことがわかったので、今は、作成したデータベースをもとに、村づくりの視点から空き家の活用を村役場と一緒に考えています。丹波山村が直面している空き家問題は、将来、地方自治体が抱え得る課題。ここで実績をつくり、ゆくゆくは他の地域にも広げていけたらと思っています。



INTERVIEW

Top Message

住む人も、訪れた人も、 笑顔で輝く「村」をつくる

丹波山村長 木下 喜人

Mayor of Tabayama Village / KINOSHITA Yoshihito





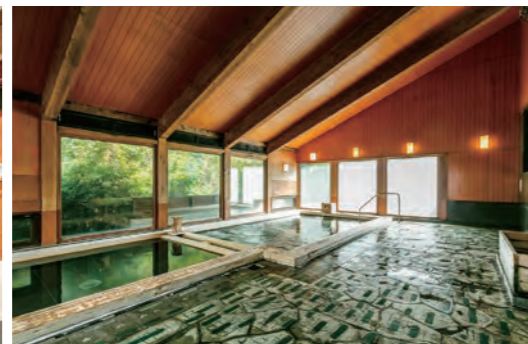
東京都民の水がめ「奥多摩湖」と鴨沢集落



丹波中学校伝統の音楽教育



道の駅たばやま



丹波山温泉「のめこい湯」



かつては長さ日本一、ローラーすべり台



村民タクシーは過疎地ならではの交通手段。観光客の利用も多い



観光を基軸に個性や特性を生かして活力を創出

また、現在は「道の駅たばやま」が観光拠点になっていますが、トイレ休憩に立ち寄るだけのケースも見受けられるので、村内に一定時間滞在してもらうための工夫も必要です。商工会や観光協会、民間事業者などとも連携を取りつつ、新たな観光産業の創出にも努めていきたいと考えます。

さらに、情報発信も大きなテーマです。これまで手薄になっていましたが、今後はSNSなども積極的に活用しながら、丹波山村の多面的な魅力を全国へ、ひいては世界へと広くタイムリーに発信し、多くのお客様に来ていただけるよう頑張っていきます。

本村の産業は観光がメインとなっており、最盛期には年間約30万人もの観光客が訪れました。現在はコロナ禍の影響もあり約18万人まで減少していますが、村内には、溪流釣りも楽しめる村営釣り場や山の頂上から滑り降りる日本最大級のローラーすべり台、自然を満喫できる複数のキャンプ場、泉質の良さを誇る村営温泉などがあり、観光地としてのポテンシャルは決して低くありません。一方で、後継者不足から畑の遊休化が進んでおり、残念ながら以前のような美しい景観を見ることはできません。村民の一人として、とても残念に思っています。

本村に来てくれるお客様にとって、最大の魅力は周囲の山々も含めた自然環境なので、農林業を振興し、日本の原風景ともいえる豊かな景観を再生・保全することは、観光振興にも直結します。こうしたことから、それぞれの産業を単体で振興するのではなく、観光業との連携強化のもとで6次産業化を進め、農林産物を使った魅力的な加工品の開発にも取り組んでいく所存です。



人と人を結ぶ絆で、誰ひとり取り残さない村をめざす

生涯安心して住み続けられる村にすることも重要です。例えば、以前から課題となっていた交通問題については、主に観光客にご利用いただいている村民タクシーを、村民にも気軽に使ってもらえるよう費用補助や利用方法を再検討するとともに、環境負荷の少ないグリーンスローモビリティなど安全性の高い新たな移動手段についても研究を進め、自家用車や運転免許を持たない方々も気軽に外出できるような環境を整備することを考えています。加えて、高齢者が抱える不安を解消するため、社会福祉協議会との連携のもと、介護保険制度にとらわれないこと、気軽に集い、誰かに見守られている安心感のなかで過ごすことのできる居場所をつくるなど、高齢者とその家族へのサポートも充実させて、誰ひとり取り残さない村をめざします。

丹波山村は500余名が暮らす小さな村です。高齢者率が50%に近い準限界集落あるいは消滅市町村と言われるなか、加速化する人口減少に歯止めをかけるため、従来の施策に加え新しい考え方も積極的に取り入れて、村づくりを進めています。

その一つが移住者の受け入れです。村では、以前から働き盛りの若い世代や次代を担う子どもたちに来てもらおうと、山村親子留学や地域おこし協力隊の採用を継続的に実施しており、一定数の現役世代の居住が実現しています。今後はマルチワークの導入も視野に入れつつ、丹波山村に何かしらの魅力を感じて来てくれた人たちに、「この村に来て本当に良かった」と思ってもらえるよう、教育環境の整備や雇用の創出、住宅の確保などにより一層尽力し、受け入れ体制を整えていきます。



日課表 (平常)		日課表 (短縮)	
職員朝礼	8:15~8:20	職員朝礼	8:15~8:20
朝読書	8:20~8:30	朝読書	8:20~8:30
朝の会	8:30~8:40	朝の会	8:30~8:40
1校時	8:45~9:35	1校時	8:45~9:35
2校時	9:45~10:35	2校時	9:40~10:30
3校時	10:45~11:35	3校時	10:35~11:25
4校時	11:45~12:35	4校時	11:30~12:20
給食	12:35~13:05	給食	12:15~12:45
昼休み	13:05~13:30	昼休み	12:45~13:10
5校時	13:30~14:20	5校時	13:10~14:00
6校時	14:30~15:20	6校時	14:05~14:55
清掃	15:25~15:35	清掃	14:55~15:45
帰りの会	15:40~15:50	帰りの会	15:10~15:20
学びTIME	15:50~16:00	学びTIME	15:20~15:30

※5校時日課の場合、学びTIMEは平常日課(14:50~15:00) 短縮日課(14:25~14:35)

時 間	4月~9月中旬	9月中旬~10月中旬	10月中旬~10月末	11月~11月中旬	11月中旬~1月末	2月~3月上旬
日 安	学業終了まで	大祭前入校まで	10月末まで	運動大会まで	1月末まで	卒業式まで
活動終了	17:30	17:15	16:55	16:30	16:15	16:55
完全下校	17:45	17:30	17:10	16:45	16:30	17:10

むらづくりの基本目標

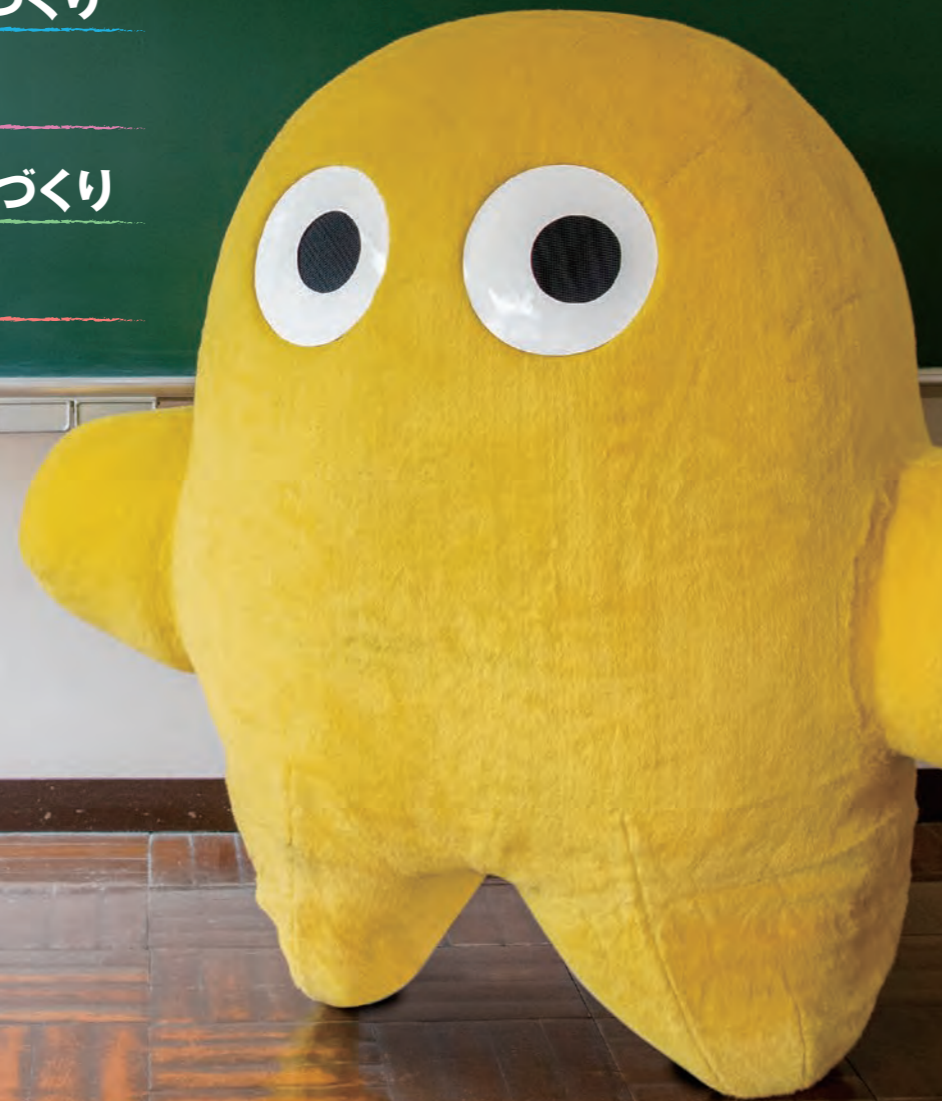
活力とにぎわいのある村づくり

自然と調和した安心の村づくり

育みと伝承の村づくり

健康でふれあいのある村づくり

知恵と協働の村づくり



ふるさと納税の返礼品、じゃがいも焼酎「七ツ石」



村民有志による販売会「村民デパート」



青梅街道の旧丹波宿の街並み



「小さな村G7サミット」は全国7地域の一番小さな村の集まり

Theme 3

村づくりの主役は村民。共につくる村の未来

丹波山村では、旧庁舎の老朽化に伴い新庁舎を建設し、令和5年4月に開庁しました。行政や災害時の拠点機能だけでなく、多様な活動の舞台として村民の誰もが利用できる開かれた場にしていきたいと考えており、すでに庁舎2階の会議室で村民有志による高齢者向けの日用品や衣料品の販売会が開催されるなど、新たな動きも始まっています。後継者不足から商店の廃業が続き、日用雑貨や衣料を購入する際には近隣市町村へ足を延ばさなければならぬなど、非常にありがたい試みだと思っています。

また、新庁舎は青梅街道の旧丹波宿に位置することから、周辺の空き家を活用して商店や飲食店、サテライトオフィスなどを誘致し、賑わいを創出する計画があります。現在、民間事業者と協力しながら空き家調査を進めており、今後は、所有者に理解を求め協力を仰いで、時間はかかるかもしれませんが必ず実現したいと考えています。

一方で、村の財政はかなり厳しい状況にあります。今、国が地方創生を推進するために多様な施策や交付金などを用意してくれていますので、それらを活用したり、ふるさと納税の増額に積極的に取り組んで財源を確保するとともに、「小さな村G7サミット」のメンバーを始め、村内外からも広く情報や知恵を得て、創意工夫を凝らしつつ慎重に事業を進めていきたいと考えています。村民の声が届く見えやすい体制づくりにも取り組んでいきますので、村民の皆様も気軽に役場へお越しいただき、忌憚のないご意見やご要望をお聞かせください。村づくりの主役は村民の皆様です。この村の将来を全員で考え、共にこの村の未来をつくっていきましょう。

循環型社会の実現へ
 安全な水の供給と水洗化が全村で実現しており、引き続き健全な水道事業の運営に努めます。生活の豊かさに比例して増えるごみについては、市民の協力のもと減量や分別をさらに進めるとともに、広域連携による3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進と資源回収施設の整

備・充実を図り、循環型社会づくりに努めます。
 さらに、公共施設へのクリーン・エネルギーの活用や省エネルギー型設備のモデル的導入、正しい情報提供などにより普及を推進するなど、自然を利用した再生可能なエネルギー対策にも取り組んでいきます。
安心安全の村づくり
 自然災害防止に向けた治山・治水対策や防災対策の充実を図るとともに、村民や関係団体の協力のもとで防災体制や救急体制を強化し、災害に強い村づくりを目指します。新庁舎建設に伴い、防災機能の強化、充実と機材や物品の整備も図っていきます。
 また、歩道や標識、照明といった施設の整備や適切な指導により、交通事故のない村づくりを目指します。消費者を取り巻く様々な犯罪から村民を守るため、防災行政無線などで積極的に情報提供し、「消費生活相談窓口」も設置します。地域ぐるみで犯罪防止に取り組み、安心して暮らせる村を実現していきます。



1. 定住促進住宅 2. 高度処理可能な下水処理場 3. 消費生活相談窓口



1

森林の持つ健康的な機能を活かした森林活用型レクリエーションの充実を図り、今後より一層観光振興に結びつけていきます。

農林業の活性化に向けて

本村の農林業は、高齢化などにより厳しい状況にあります。村では農道や林道、作業道などの基盤整備や猟友会との連携による鳥獣害対策を積極的に進めて、農地や山林の保全を図るとともに、担い手の育成や経営の安定に向けた支援を行っていきます。

また、キノコやジビエといった特産物の生産拡大と販売支援を強化し、村の看板商品へと育てていくとともに、新たな高収益特産物の研究・開発にも努めます。観光事業との連携を強化し、豊かな森林資源の地産地消や特産化に向けた取り組みも推進して、農林業の活性化を目指します。

商工業を振興し賑わいを創出

村内の商店は年々減少しており、中心街にも空き店舗が目立つ状況です。村では、商工会との連携のもと各種保証制度の利用促進や研修会の充実などに取り組み、経営基盤の強化を図るとともに後継者の育成や確保にも努めていきます。

また、増え続ける空き家対策とし

て、商業施設としての整備やサテライトオフィスの設置など利活用を促進し、賑わいの創出につなげます。加えて、森林資源等を活用した新たなモノづくりに挑む起業家や、特産品の開発や商品化を目指す農産物加工グループに対して効果的な支援を行い、丹波山のモノづくりを推進して、商工業の活性化を図っていきます。

開発と発信により魅力ある観光地へ

美しい自然を最大の観光資産と位置づけ、全村水源公園構想や、丹波宿再生事業による街並み景観の整備、観光案内板の設置を推進するとともに、遊歩道や登山道、山小屋、山岳トイレなどの整備、周辺の市町村や観光協会、観光連盟との連携によるモデルルートの開発などに取り組み、自然に配慮しつつ有効活用していきます。

また、第二源泉を活用した新たな環境拠点の整備、自然体験型交流イベントの実施、漁業協同組合との協働による鮎のブランド化と溪流釣りなど、新たな観光資源の開発とPRにも努め、魅力的な観光地を目指します。



1. ブランド化したジビエ商品は道の駅の人気商品 2. 空き家調査の様子 3. 観光客に人気の村営つり場



1

健康づくりの推進と医療体制の強化
 人生百年と言われるなか、健康寿命の延伸がより重要になっていきます。村では、全ての村民が健康な日々を送れるよう、健康増進計画および食育推進計画に基づいた着実な取り組みと定期的な見直しにより、心と体の健康づくりを推進していきます。医療・検査機関、診療所との連携を強化し、医療体制の充実を図るとともに、健康診査の補助を充実させて、受診率の向上と疾病の早期発見に努めます。

地域福祉の推進と高齢者福祉の充実
 加えて、参加しやすい相談体制の整備と健康教育の充実、健康に関する情報提供や各種団体の活動支援などにも取り組み、地域全体の健康づくり活動を進めます。

地域福祉の推進と高齢者福祉の充実
 村民の福祉意識を高め、地域全体で支え合う体制づくりを進めます。また、社会福祉協議会やボランティア団体との連携を深め、サービス供給体制の充実に努めます。

高齢者が多い村の状況に合わせ、地域社会の意識啓発や隣近所同士の

支障を持つ人や生活上の困難がある人たちが、住み慣れた場所で地域の人たちと心豊かに暮らせるよう、在宅介護サービスなどの充実を進め、ニーズに応じた福祉サービスが提供できる人材を確保して、自立や社会参加を支援します。

共助がしやすい地域づくりを推進するとともに、高齢者の生きがいづくり、生活支援や介護支援のための体制づくりにも努めます。

加えて、介護事業者との連携を強化し、質の高い介護サービスの提供に努めるとともに、ケアマネージャーの確保や養成にも取り組みます。

地域ぐるみで子育てや自立を支援
 次世代を担う子どもを安心して産み育てることができるよう、保健・医療機関と連携して心身の健やかな成長をサポートする体制を整備し、悩みや不安を軽減するための相談窓口を充実させます。交流の場づくりや広報誌やCATV等を活用した情報提供により、村民の協力を得ながら地域で子育てできる環境づくりに努めます。

また、郷土民俗資料館を充実させ、村民が地域の歴史文化に触れる機会を積極的に設けて、村民の理解促進と郷土愛を育み、景観の保全や歴史文化の次世代への継承を図ります。

充実した学校教育を実現
 村費負担教員（村単教員）の採用による教職員数の確保をはじめ、充実した教育環境づくりに取り組んでいます。子どもたち一人ひとりが自ら進んで考え、判断し、表現できるように、学力・体力に加え、タブレット型端末を活用した情報教育、ALTによる国際理解教育、村民を講師に招いての郷土教育、ボランティア活動への参加など、多様な学習機会を設けていきます。

小規模校のメリットを生かしたきめ細やかな学校教育を推進し、全ての子どもが個性や能力を存分に発揮して、のびのびと育ち学ぶことのできる学校教育を実践するとともに、家庭・学校・地域がそれぞれの役割を果たしつつ連携し、互いに思いやり学び合える人づくりを進めていきます。

生涯学習と生涯スポーツの振興
 村民が心身ともに健康で生きがいを持って、より豊かな人生を送ることができるよう、視聴覚教材や蔵書の充実、関連施設の計画的な整備・改修、活動拠点となる公民館活動の

支援などに取り組む、推進体制の整備を進めるとともに、団体などの自発的な活動や指導者育成も支援していきます。

また、住民のニーズに対応すべく学習、スポーツ共に環境の整備に努め、本物を体験する機会の提供や海外留学事業の推進にも取り組めます。さらに、周辺自治体と大会を実施するなど広域的な交流を進め、スポーツ活動の活性化を図ります。

丹波山文化を伝承するために
 明治中期の大火によって多くの文献や文化財を焼失したものの、「ささら獅子」をはじめとする貴重な伝統文化が継承されています。村では郷土の歴史に関する調査・研究や、現存する古書の分別・整理・保存に努めるとともに、文化財保存会の活動や文化財の発掘・保存活動を支援します。

また、郷土民俗資料館を充実させ、村民が地域の歴史文化に触れる機会を積極的に設けて、村民の理解促進と郷土愛を育み、景観の保全や歴史文化の次世代への継承を図ります。

また、郷土民俗資料館を充実させ、村民が地域の歴史文化に触れる機会を積極的に設けて、村民の理解促進と郷土愛を育み、景観の保全や歴史文化の次世代への継承を図ります。



1.乳幼児検診 2.デイサービスセンターでのタブレットを使ったコミュニケーション 3.保育所で元気に遊ぶ子どもたち

1.丹波中学校の清流祭 2.村民体育祭には全村民が集う 3.郷土民俗資料館 4.県指定無形文化財「ささら獅子」

村民と行政担当者が村の魅力を語ります

TABA TALK

小さな村だからこそ、
村民と行政の距離が
近いことも村の魅力のひとつ。
4組の話から聞こえてくるのは、
村を盛り上げていきたいという
確かなキモチ。



知恵と協働の村づくり

村民の主体的な活動を支援するとともに、
コミュニティ活動の活性化を図り、
様々な分野における女性の参画のサポートをしていきます。

一人ひとりが主役の村づくり

奥秋・上組・中組・下組・高尾・
押垣外・保之瀬・東部の8地区は、
村づくりの基礎をなす自治・コミュ
ニティ組織であり、村民と行政をつ
なぐ情報伝達機関でもあります。村
では、コミュニティの活性化を促進
し、全ての行政区が健全な組織を維
持し、地域が抱える様々な課題に対
して主体的に活動できるように支援し
ていきます。

また、村民の理解を促し、活動への
意欲を醸成するため、わかりやすい
行政情報の提供や行政ニーズの把握
にも努めます。さらに、家庭・教育・
地域社会など、あらゆる分野に男女
共同参画の視点を取り入れ、女性が
積極的に参加し主体的な活動ができ
る体制づくりと、活躍の機会の確保
に努めていきます。

情報発信と地域間交流

国際交流や地域間交流などの広域
交流は、村づくりや地域経済の活性
化に多大な効果をもたらします。

村では、インターネット、SNS
といった情報通信技術を積極的に活

用し、本村の魅力を広く発信して認

知を高め、観光客の誘致に努めます。

また、スポーツ・文化・芸術・観
光産業など、幅広い分野において周
辺市町村や都市との交流を促進し、
交流人口の拡大に努めます。さらに、
高度情報化社会における重大な課題
の一つであるセキュリティ対策につ
いても、村民のプライバシーに配慮
しつつ個人情報の保護に向けた強固
な体制を構築していきます。

行政運営の充実と財政の健全化

多様化・高度化する行政ニーズに
対応すべく、庁内のネットワーク化
など体制を整え、同時に、各種研
修への参加により職員の能力開発や
資質向上を図ってきました。今後は、
事務事業の標準化・マニュアル化を
さらに進め、より迅速かつ効率的な
行政運営に努めます。

今後ますます厳しさが増すと予想
される財政については、中長期的展
望に立った効果的な事業展開や重点
的・効果的な事業の実施、事務事業
の見直しなどによる経費節減に努
め、健全な財政運営を目指します。



1.商工会女性部の活動 2.夏まつり丹波は村最大のイベント 3.魚のつかみどり



1 丹波山の農林業の魅力

ローラーすべり台の点検に行った帰り道で、TreeLumberの車を見つけた振興課の岡部英利課長。道路脇の森の中で間伐作業中の佐藤駿一社長と伊東真由さんに声を掛けました。

岡部 今日は何の作業をしているの？
佐藤 間伐という仕事をしています。今は村からの委託をはじめ、県や国、企業からも森林整備の依頼があるので、いろいろな作業を進めています。

岡部 伊東さんは、地域おこし協力隊として1年間観光に携わった後で、佐藤さんのもとで林業をやるようになったんだよね。そろそろ1年になるけど仕事には慣れた？

伊東 はい。チェーンソーでの伐採も、木の上まで登っての枝打ちもできるようになりました。

岡部 大変なことはない？

伊東 正直、肉体的にはきつい部分もあるんですが、精神的には日々季節を感じながら、体を動かし汗を流して森の中で働くというのはとても幸せなことだなあと感じています。

岡部 昔は林業が盛んだったのに、近年村内に林業事業者が少ない状況が続いて問題になっていったんだよね。それが、佐藤さんが起業してくれて、伊東さんのような若い人も林業に興味を持ってくれるようになった。おかげで森に活気が戻ってきて、村としても感謝しているよ。

佐藤 今、林業事業者にも世代交代が起きてるし、環境に対する考え方や



価値観も変わってきていて、防災をはじめ、いろいろな意味で森に価値を見出す人が増えているので、林業全体が良い方向に向かっているのかなと思っています。それに、丹波山の森には東京都の水源林という面もあるので、東京都民の安全な水を守るという意義のある仕事だということも、やりがいにつながっているんじゃないかなと思います。

伊東 私は、友達に仕事の内容を話すと、「カッコいい！」って言われることが多いですね。後継者不足が問題になっていきますけど、知らないことも理由のひとつではないかと。

岡部 村として発信していく必要がありそうだね。そういえば、薪とか木工製品の加工や販売もしているんだよね。農業とのつながりもあるの？

佐藤 ありますよ。例えば原木舞茸。舞茸を栽培している丹波山倶楽部さんに栽培用の木を提供しています。またまった畑を確保するのが難しい丹波山の地形ですが、舞茸は丹波山の気候や風土だからこそ育める貴重な農産物ですし、とてもおいしいので、僕らとしても一緒に盛り上げていきたいと思っています。それから、農産物という点ではじゃがいも。在来種のじゃがいも、「落合いも」と「つやいも」には、ここしかないおいしさがあるので、生産量を増やせたらいいですね。

岡部 佐藤さんの林業もそうだけれど、他にも、丹波山のシカを使ったジビエのように新しい産業として今後期待ができそうな動きもあるよね。村としても応援していきたいと思ってるので、これからもぜひ力を貸してください！



佐藤駿一さん(左)
神奈川県出身。
地域おこし協力隊を経て起業した林業事業者
株式会社TreeLumber代表取締役
伊東真由さん(右)
新潟県出身。
2022年4月に観光分野の地域おこし協力隊として来村。
翌年より林業へ転身。



丹波山村・振興課／岡部英利
農林業に関することは
shinko@vill.tabayama.yamanashi.jp



2 丹波山の子育てと福祉の魅力

村民の率直な意見を村政に反映している丹波山村。
住民生活課の雨宮真澄副主査と瀧本清明主任も、村民とのフランクな交流を大切にしています。

瀧本 以前、高齢者生活福祉センターを利用していたんですよ。

登美子 ええ、主人の母が生前にデイサービスを利用しました。あれはとても良いサービスよね。最初こそ行き渋りが見られた義母も、すぐにニコニコしながら進んで行くようになって楽しそうでしたし、私も仕事を続けることができ、本当にありがたかったです。

瀧本 民間に委託せず村が運営しているんですが、スタッフの対応はどうでした？

登美子 送迎も、日々の対応も、すごく親切でしたよ。スタッフ全員と顔見知りなので信頼してお任せできますし、皆さん、いつも笑顔で、良い言葉をかけてくれるので安心でした。

瀧本 それは良かった。励みになると思うので、スタッフにも伝えたいと思います。逆に、あればいいと思うサービスはありますか？

登美子 訪問介護があるとうれしいかな。あと、高齢者が多いので、診療所が病気の治療だけでなく不安や心配ごとにも寄り添ってくれる存在になってくれたらと思いますね。

瀧本 村では内科と歯科の診療所を運営していますが、医療のあり方につ

したんで、かえって良かったと。

雨宮 丹波山の子どもたちは、自分で考えて行動できる、自立した逞しい子に育っていますよな。

辰之 それはこの環境が大きいんじゃないかな。小さなコミュニティだから。みんなが子どもとの顔と名前を憶えてくれていて、何かにつけて声をかけてくれるし、叱ってもらえる。いろいろなことを経験させてもらえる機会も多いと思うんだよね。上の二人は大学生と高校生になったんだけど、俺たち親だけじゃなく、村の人たちの目と手でここまで育ててもらったと、改めて感謝しています。

雨宮 それこそが丹波山で子育てする最大の魅力ですよな。この環境を守り続けるため、村としても力を尽くしていきたいと思っています。

いては今後も検討していきますね。

雨宮 子育て面はどうでしょう？

辰之 以前は埼玉にいたんだけど、共働きなのに長男が待機児童になっちゃってね。それで丹波山に戻ってきたら、保育園にはすぐに入れたし、保育園から中学まで給食費や学用品の費用は一切かからず、医療費も全額助成されるようになった。安い家賃で村営住宅に住まわせてもらい、手厚いサポートを受けながら子育てができて、ありがたかったですね。

雨宮 子どもが少ないことは気になりませんか？

辰之 抵抗なかったですね。それより、習い事や塾がないのが気になったかな。でも、学校でやりたいことに挑戦させてもらえたり、一人ひとりに丁寧な勉強を教えてもらえたり



守岡登美子さん(左)/辰之さん(右)
丹波山村内に三世代が暮らす守岡家。
登美子さんは元保育士。
辰之さんは建設会社に勤務しながら、
妻の美香さんと共に、
長男(20歳)長女(17歳)次女(7歳)を育てている。



丹波山村・住民生活課/瀧本清明(左) 雨宮真澄(右)

子育て・福祉に関することは
jumin@vil.tabayama.yamanashi.jp



TABA TALK



丹波山の歴史と教育の魅力

ある日の放課後、所用で丹波中学校を訪れた教育委員会の中村達也次長。2年生の教室に大野大青くんと内田英太教諭の楽しそうな姿を見つけ、声を掛けました。

中村 なんだかにぎやかだね。内田 修学旅行の事前学習で盛り上がっています。

大野 京都と広島へ行くんです。中村 そうなんだ。楽しみだね。

大野 はい！

中村 ところで、大野くんは山村留学で丹波山に来たんだよね。丹波山村はどうですか？

大野 自然が豊かできれいな場所だなあと思います。

中村 丹波山に来てからの活動で印象に残っているものはある？

大野 舞茸祭りです。中学生も去年から参加するようになって、今年は、自分たちでつくった舞茸入りの豚汁を屋台で販売しました。舞茸を育てたり、大豆を育てて味噌をつくったりもしたんですよ。当日は、たくさんの方が来て買ってくれて、180食も売れました。疲れたけど楽しかったです。

内田 丹波山倶楽部の酒井さんやアルケミストの坂本さんをはじめ、多くの村の方々に、舞茸栽培や味噌づくりなどいろいろなことを指導してもらったんだよね。お祭り当日の接客やお金の管理も含め、子どもたちの良い経験になっていると思います。

自分からやるのは苦手なので…。

内田 自律が大事だね。私は、こんなに近い距離で生徒と接しつつ、一人ひとりの将来を見据えながら指導ができる減多にない機会なので、改めて学ぶことも多く、新鮮で楽しい毎日過ごさせてもらっています。

大野 今も楽しいけれど、できればもっと友達がいればいいな。

中村 そうだね。教育委員会としても、各学年に一定数の生徒がいる状況をつくっていきたくと考えています。そのためには、丹波山村でかできない教育環境をつくるのが大事だと思うので、これからの魅力ある学校づくりを進め、それを全国に発信して、そこに魅力を感じてくれる生徒やご家族に来てもらえるよう頑張っていきます。



大野大青くん(左)
親子山村留学で丹波山村に来た
丹波中学校2年生
内田英太さん(右)
2023年度丹波中学校赴任。
2学年担任



丹波山村教育委員会／中村達也

学校教育に関することは
kyoiku@vill.tabayama.yamanashi.jp



4 丹波山の観光の魅力

「道の駅 たばやま」は、観光立村・丹波山のPRを担う温泉観光課の中村裕樹主任にとって貴重な情報収集の場。今日も、スタッフと談笑する中村主任の声が聞こえてきます。

中村 最近の様子はどうか？

川端 相変わらず温泉に来られるお客様が多いですね。「のめこい湯」はお湯が良いと評判なので、県外からも多く来られていますよ。これは以前からですが、丹波山に登山口がある雲取山も飛龍山も人気がある山なので、登山をして、温泉に入って、道の駅でお土産を買ってお帰りになるというのが一つのコースになっています。最近は、人気アニメの影響で、聖地巡礼で来られる若いお客様も増えていますね。

中村 バイクや自転車のお客様は？

川端 バイクの方は、朝と夕方のお2回立ち寄って休憩を取られる方もいるくらい、ツーリングスポットとして認知されているみたいですね。自転車のお客様も増えているようです。あとは、キャンプですね。ご家族連れはもちろん、ソロキャンプの方もよく見かけます。

中村 村内にはいくつもキャンプ場があるから積極的にPRしていきたいですね。あと、自転車のお客様にも丹波山村の認知度が高まっているようだから、サイクルラックや空気入れなど、いま以上にサービスを拡充していきたいですね。

川端 いいですね。お越しになるお客様、みんなのターミナル。つまり、人も

商品も集まる場所として「道の駅たばやま」を盛り上げていきたいです。

中村 ぜひ、お願いします。ところで、今一番人気の商品は何か？

川端 やっぱりTABA テラスの「ソフトクリーム」ですね。お客様も「このソフトクリームは他とはちょっと違うね」とよく話題になるんですよ。

中村 私もSNSでそういった評判をよく目にするよ。「ちょっと違う！」ってところに気づいてもらえるとうれしいよね。他の商品の動向はどう？

川端 TABA テラスの「鹿ばあーがー」や直売所で売っている鹿のブロック肉、ソーセージ、カレー類、ペット用のジャーキーやふりかけなど、ジビエ関連商品の人気が出てきた半面、地場野菜の出品が減っているので、そこを充実させてもらえたらと思うんですが。

中村 生産者の高齢化が進んでいて、農産物の収穫量も年々減少傾向にあるんだよね。

川端 舞茸とか、わさびとか、特産品はすごく人気があって、その時期を狙って買いに来られるお客様も多いんですよ。古くから村に伝わる在来種のじゃがいもの生産量も増やして、特産品にしていきたいですね。

中村 確かにそうだね。でも新たな担い手を探すには時間がかかりそうだから、もしかすると外部に協力をお願いする必要も出てくるかもしれない。いろいろと検討しつつ、村で責任を持って取り組んでいきます。いろいろと課題はあるものの、観光はこの村にとって大切な産業。たくさんの方に来てもらい、楽しんでもらえるように、これからも頑張っていきたいと思います！



川端ゆかりさん
丹波山村出身。
株式会社QOLたばやまの社員
「道の駅 たばやま」のスタッフとして活躍中



丹波山村・温泉観光課／中村裕樹

観光に関することは
kanko@vill.tabayama.yamanashi.jp

福祉



全ての村民が健やかに暮らせるよう、目配り、気配り、心配りをしています。

福祉に関する施策は、保育所や社会福祉協議会との密接な連携のもとで実現しています。

高齢者福祉の拠点となる高齢者生活福祉センターでは、デイサービスと居住施設があり、デイサービスの利用者は1日あたり4～5名で、常時5～6名のスタッフが入浴・食事・健康づくり運動・レクリエーションなどを行いながら楽しく過ごしています。利用者一人ひとりの都合に合わせて送迎をするなど、一人暮らしの高齢者にも利用しやすい状況を作っています。

毎月のケア会議では、医師や保健師とともに、利用者の健康状態、家庭環境、心配ごとなども細かく共有しながら、高齢者の暮らしをサポートしています。

一方、児童数は少ないですが、村立の丹波保育所では、1歳半から6歳までの児童を受け入れ、幅広い年齢層の保育士によって、児童一人ひとりの個性や発達状況に応じた保育活動とアットホームで自然豊かな環境のもと、のびのびと健やかに成長しています。

「誰ひとり取り残さない、いつまでも続く村」に向かって、村民の理解と協力のもと、魅力ある村づくりに邁進しています。



丹波山村の
取り組みと

教育



保護者も地域住民も一緒になって、特色ある学校づくりを進めています。

丹波小・中学校では、児童・生徒数の減少による複式学級を回避するために、村単独で教員を採用し、不足した教員数を確保しています。また、1994年度からは「親子山村留学制度」を実施しています。この制度は、児童・生徒を受け入れるだけでなく、保護者と一緒に家族で移住してもらうことで、人口増加も図るというものです。

現在、在籍している児童・生徒の約半数は留学生という状況であり、一定の成果を上げていると考えられます。

さらに「この学校で学びたい」と思える学校を目指し、特色ある学校づくりを進めています。その一つが、保護者や地域住民が一体となって学校運営に参画する「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」です。

2023年度から、「自然体験」「伝統文化継承」「地域産業・特産品」を3本柱に、授業の一環として、地域の人たちの協力による体験型の授業が始まっています。

今後は、学校運営協議会を中心に、検証と改善を重ね、より魅力ある学校づくりに取り組んでいきます。

医療従事者の確保に努め、身近な診療所を維持しています。

村内に医療機関があることは、村民の安心につながります。村では、1955年に「丹波山村国民健康保険診療所」を開設して以来、「無医村にしない」という決意のもと、医療従事者の確保に努めてきました。

現在、医科診療所では、村職員の医師と看護師が常駐し、外来診察や予防接種、定期的に各種検診などを行うとともに、鴨沢地区への出張診療も実施しています。診療所内には歯科診療所も併設し、週4日の診察日で治療や検診を行っています。

村民の命と健やかな暮らしを守るためには、関係機関との連携も欠かせません。医師と社会福祉協議会、保健師が参加してのケア会議を毎月実施することで、高齢者の健康状態などの情報を共有しながら、健康維持と病気予防に取り組んでいます。

年1回行っている健康診断や人間ドックでは、行政無線での呼びかけや訪問活動、来庁者への声掛けにより、60%以上の受診率を維持しています。



医療

上
下
水
道



安心安全な飲料水の供給と、
下水道の高度処理に努めています。

丹波山村は東京都の水源涵養林として、村民だけでなく、東京都民の命の水、ライフラインを守る重要な役割を担っています。そのため、丹波山浄化センターは高度処理が可能な施設として、生活排水をきれいな水に戻して多摩川に放出するといった水質保全に取り組んでいます。

村内の簡易水道の浄水場は3か所あり、塩素濃度を日々測定管理し、丹波・鴨沢・保之瀬第一の水道網を通して、すべての家庭に安心安全な飲料水を供給しています。

下水道についても、東京都水道局と奥多摩町の全面的な協力のもと、1982年に特定環境保全公共下水道として、丹波処理区に着工したのを皮切りに、1999年に鴨沢処理区、その後、小袖・杉奈久保集落の小規模排水処理施設、合併浄化槽と順次整備していき、山間地でありながらも、全村が水洗化されています。

下水道事業着手から40年が経過し、今後は、水道管や下水道管の老朽化対策が必要ですが、東京都や流域市町村と協議しながら、計画的に進めていきます。

S
D
G
S



50年、100年先の丹波山村へ、
この豊かな自然をつなぐために。

SDGs(エス・ディー・ジーズ)とは、「持続可能な開発目標」の略称で、「誰ひとり取り残さない」を理念として、2030年までに達成すべき17項目からなる国際目標です。丹波山村でも、すでに取り組みを始めています。

新庁舎の建設にあたっては、傾斜地の特徴を生かした自然通風、自然換気に有利な屋根の形状や、日差しを効果的に遮る大きな庇を採用し、年間消費電力及びランニングコストとCO2(二酸化炭素)排出量の大幅削減を実現し、「Nearly ZEB(ニアリーゼブ)」認証を取得しました。

庁舎裏手には約160㎡の太陽光パネルが設置され、自家発電によって、庁舎の消費電力の75%をまかっています。

また、村営七ツ石小屋と三条の湯の両山小屋には、バイオトイレを整備し、三条の湯では早くから水力発電を導入するなど、循環型社会に向けた取り組みも進んでいます。

村の97%を占める山林の保全活動の活発化と、二酸化炭素を吸収できる森づくりを推進し、100年後も丹波山村が持続するための活動に取り組んでいます。

適切なゴミ処理と再資源化を推進し、
環境美化と環境保護に努めています。

生活の豊かさに比例して増えてしまうゴミ。適切に処理することは、衛生的な環境を維持するだけでなく、豊かな自然環境を守ることにもつながります。

村では、8項目(燃えるゴミ、粗大ゴミ、ビン類、カン類、プラスチック、ペットボトル、雑誌、新聞、ダンボール)の分別収集を実施し、村民にわかりやすくまとめた「分別判別表」を作成して全戸配布しています。

また、広域連携による3R(リデュース・リユース・リサイクル)も推進し、収集したゴミはその日のうちに処理業者に引き渡す体制を確立しています。

近年、大型ゴミの不法投棄が問題になっていますが、駐在所とも連携を取りながらパトロールを強化し、監視カメラを設置して抑止に努め、投棄現場を発見した際には直ちに通報するなど、厳しく対処しています。

年3回、住民総参加型の「環境美化清掃活動」を行っていますが、毎回多くの村民の参加により、環境に対する意識向上の機会にもなっています。



環
境

新庁舎完成による防災機能の拡充と、
災害に強い村づくりを推進しています。

現在、村民の5人に1人が消防団員として活躍し、火災や自然災害の際には、大月市消防署丹波山出張所と協力して消火や救助活動にあたっています。

村消防団所有の消防車は5台。団員も月1回の訓練に加え、毎年、県の消防学校に入校し、操法訓練の指導を受けるなど、万が一の有事に備えています。

2023年4月に開庁した新庁舎は、災害時には対策本部として、また、村民の避難所としての機能も備えており、3日間分の非常用電源と飲料水、雑用水も確保しています。

村内全戸に配布している防災行政無線も、AIによる読み上げ機能を備えたタブレット端末に一斉し、音声だけでなく、文字情報としても情報発信と確認が可能となりました。

2024年中には新たな防災計画を策定し、県内で初めて物流業者と「災害時における支援物資の受入および配送等に関する協定」を結ぶ予定です。

今後も、防災関係の講座を開講するなど、防災意識の向上に向けた取り組みを継続していきます。



消
防
防
災

令和6年1月2日、丹波山村役場にて「二十歳の集い」が行われました。新たに二十歳を迎えた3名が、それぞれ将来への抱負と決意を述べてくれました。村長のメッセージとともに紹介します。

各自の夢に向かって進んでいてもらいたいです。また、これからも村に関わっていかれるとうれしいです。

村長 木下 喜人

大学で農山村再生論を学んでいます。学んだことをいつか村に還元したいと考えています。

守岡 響希さん

県内で自動車整備士の仕事をしています。将来は村に戻って整備士として働きたいです。

守屋 瑠唯さん

教員を目指して大学で学んでいます。成人として責任のある行動をとっていきたいです。

芦澤 優希さん



議会と行政

村議会は村民生活の向上と、
村の発展のために真剣に取り組んでいます。



村議会議員 [後列] 広瀬 直照 酒井 隆幸 守屋 旭
[前列] 白木 昭一 守屋 保志(副議長) 嶋崎 義人(議長)



教育長
吉野 喜久男

村長
木下 喜人

副村長
芦澤 泰士

小さな村というプライドがあります。
小さな村だからこそできることも
たくさんあります。
住む人の数は少ないかもしれませんが、
人々をつなぐ縁は
とても大きく強いものです。
この縁こそが、
小さな村の大きな可能性になっています。
縁めぐる里 丹波山村の発展に
どうぞご期待ください。